

## 自由集会のご案内

\*\*\*\*\*  
**自由集会1「国際的な環境情報の共有」**

オーガナイザー： 中野武(大阪大学環境安全研究管理センター) [ntakeshi@jrl.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:ntakeshi@jrl.eng.osaka-u.ac.jp)

日 時： 6月8日(水) 18:30 ~20:00 (1日目)

会 場： C会場エスカレーター側 (301B)

海外の研究者から、世界各地の環境の状況を報告していただきます。

学生、若手研究者、留学生の皆さん、英語で自分の研究を紹介してみませんか？

いきなり、国際会議では、ハードルが高いと思われるあなたも、参加してみませんか？

発表時間は3分以内、パワーポイント、スライド3枚で皆さんの研究のエッセンスを紹介してください。6月7日までに、中野宛([ntakeshi@jrl.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:ntakeshi@jrl.eng.osaka-u.ac.jp))に、スライド3枚を送付ください。この自由集会を手伝ってみようという方も歓迎です。その旨お知らせください。

\*\*\*\*\*  
**自由集会2「滝上英孝氏追悼シンポジウム」**

オーガナイザー： 白石不二雄(国立環境研究所) [fujios@nies.go.jp](mailto:fujios@nies.go.jp)

日 時： 6月7日(火) 15:00~17:00 \*本集会は開催日時が他の自由集会と異なりますのでご注意ください。

会 場： 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター D会場 (302B)

本学会会員でありました滝上英孝博士(在職時;国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター ライフサイクル物質管理研究室長)は、病気療養中のところ、平成27年7月26日に永眠されました。ここに心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

滝上英孝氏は十数年にわたり本学会において多くの研究成果を発表するとともに、環境化学討論会の実行委員や学会役員などを務められ、学会の発展と活性化にご尽力されました。とくに、生物検定法を用いたダイオキシン類の測定に係る公定法の構築やPCB含有廃棄物の適正処理技術、資源循環・廃棄物処理過程における難燃剤など有機汚染物質の挙動に関する研究分野で数多くの業績を残されており、2011年には本学会の環境化学学術賞を受賞されました。また、東日本大震災以降は、環境化学分野の研究者としていち早く被災地へ行き、津波汚泥や震災廃棄物を対象とした有害化学物質の汚染実態調査や放射性物質汚染廃棄物の適正な処理・処分に関する調査に献身的に取り組まれ、集積した科学的知見や技術情報を行政機関や被災地住民に還元することにご尽力されてこられました。故人の環境化学研究への真摯な取り組みは、多くの環境化学に取り組む研究者の共感を得るとともに、若手研究者の模範になることと思います。

滝上英孝氏が国内外で実施されてきた研究の一端を、共同研究者から紹介して頂く追悼シンポジウムを開催いたします。

話題提供者(敬称略、五十音順)：

浅利美鈴(京都大学)、上田浩三(日立造船)、梶原夏子(国立環境研究所)、小瀬知洋(新潟薬科大学)、白石不二雄(国立環境研究所)、鈴木 剛(国立環境研究所)、高菅卓三(島津テクノロジー)、高橋 真(愛媛大学)、野馬幸生(元福岡女子大学)、平井康弘(京都大学)、山本裕史(徳島大学)

\*\*\*\*\*  
**自由集会3「パッシングサンプリングによる環境モニタリング」**

オーガナイザー： 遠藤智司(大阪市立大学) [satoshi.endo@urban.eng.osaka-cu.ac.jp](mailto:satoshi.endo@urban.eng.osaka-cu.ac.jp)

日 時： 6月8日(水) 18:30 ~20:00 (1日目)

会 場： C会場奥側(301A)

環境汚染のモニタリング法としてパッシブサンプリングの研究が進んでいます。パッシブサンプリングは「従来法より精度が劣る、簡易的な代替手段」と思われがちですが、むしろ従来法では測れない、生態影響と関係が深い指標濃度を測れる技術として期待されています。世界では既にスーパーファンド法や EU 水枠組指令等、規制関連での活用が検討されており、日本国内でも POPs、PPCPs、ネオニコチノイドを含む農薬、放射性核種、重金属、栄養塩類等への応用が研究されています。自由集会ではパッシブサンプリングによる水環境汚染調査を実践・研究している方々に報告を頂き、応用の可能性、研究課題などを自由に議論したいと思います。パッシブサンプリング？という方も大歓迎です。

\*\*\*\*\*

#### 自由集会4 「微量元素の環境化学研究の新たな展開」

オーガナイザー： 坂田昌弘(静岡県立大学) [sakatam@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:sakatam@u-shizuoka-ken.ac.jp)

日時:6月8日(水) 18:30 ~20:00 (1日目)

会場:D会場(302B)

近年における分析技術やシミュレーション技術の著しい進歩は、これまでの微量元素の環境化学研究を飛躍的に発展させる可能性があります。その主なものとしては、①同位体計測、②XAFS等によるスペシエーション、③動態モデル開発が挙げられます。これらの分野で精力的に研究を進められている研究者の方々から、研究の意義や面白さ、将来性などについて話題提供していただきます。その後、参加者の方々から自由に発言していただき、微量元素の環境化学研究における発展の可能性や方向性について意見交換させていただきます。

\*\*\*\*\*

#### 自由集会5 「かんばけワークショップ どうする?どうなる?これからの25年」

オーガナイザー： 水川薫子(東京農工大学) [mzkako@cc.tuat.ac.jp](mailto:mzkako@cc.tuat.ac.jp)

： 水川葉月(北海道大学) [hazuki.mizukawa@vetmed.hokudai.ac.jp](mailto:hazuki.mizukawa@vetmed.hokudai.ac.jp)

チェア： 鎌迫典久(国立環境研究所)、今泉圭隆(国立環境研究所)、芳之内結加(愛媛大学大学院)

日時:6月8日(水) 18:30 ~20:00 (1日目)

会場:E会場(302A)

今回で環境化学討論会は25回目を迎えましたが、これからの25年はどうなっていくのでしょうか? これまでの歴史を見てきた方々の考え方、先端に行く研究者のビジョン、研究を始めたばかりの学生ならではの視点を交えながら、環境化学の未来にちょっと思いを馳せてみませんか? 世代や所属を超えた生の声を共有できるワークショップを目指していますので、幅広い世代や様々な所属の方のご参加をお待ちしています!

\*\*\*\*\*

#### 自由集会6 「自然災害と環境化学」

オーガナイザー:中田晴彦(熊本大学) [nakata@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp](mailto:nakata@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp)

:中島大介(国立環境研究所) [dnakaji@nies.go.jp](mailto:dnakaji@nies.go.jp)

日時:6月8日(水) 18:30 ~20:00 (1日目)

会場:B会場(201)

災害時・事故時等の平時とは異なる環境状態(非定常時)において、環境化学が果たすべき役割と責任について考える。非定常時における調査項目、意義、手法、それぞれの立場(国、自治体、地環研、大学、民間企業、学会等)における役割分担と連携体制、結果の公表と活用、平時における備え等について、過去の災害時の経験や反省を踏まえて議論する。研究者だけでなく、行政的視点からの参加も歓迎する。